



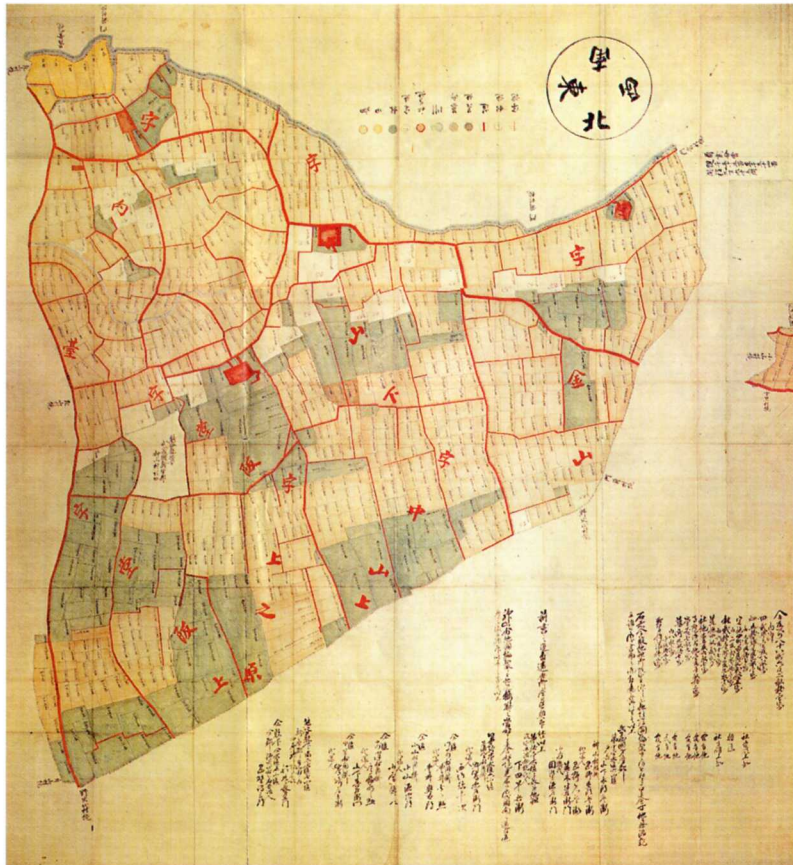


「地引絵図」は地目別に色分けされています。畑（茶）、田（黄）、林（緑）、宅地（白に屋根形）、寺社地（赤）、川（青）、道路（赤）などで、絵図にはその凡例が付いています。また、図の余白には絵図編成の村責任者の連名（印）、隣接村の立会人連名（印）、地目地積（合反別）、作製年月、方位などが記載されていますが、なかには凡例や作製年月、地目地積などがぬけているものもあります。全図は何枚もの和紙を張り合わせて作られており、最大で430×360cmほどの大きさがあります。全図のほとんどは厚紙の表紙が付けられ、40×30cmほどに折りたたまれています。

「地引絵図」は昭和47年に市役所の倉庫からまとまって発見されたもので、歴史的な価値が非常に高いことから、昭和63年に東久留米市の指定有形文化財となりました。また、本来はこの地図に付随して土地台帳が作られたものと思われませんが、残念ながら土地台帳は確認されていません。今後の発見とさらなる研究に期待したいと思います。

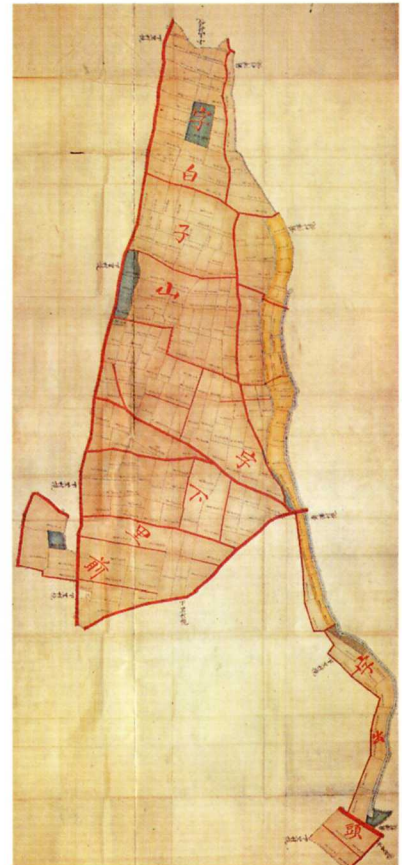
これらの「地引絵図」は東久留米市史編纂委員会の編集（解説：犬井 正）によって昭和51年に復刻され、『明治時代各村地引絵図』（1）神山村・門前村、（2）小山村・南沢村、（3）下里村・前沢村・柳窪村・柳窪新田、として東久留米市教育委員会から出版されています。

参考資料：上記復刻版の解説（犬井正著）、『神奈川県明治期地籍図』（佐藤甚次郎著）暁印書館 1993



原寸 407cm×233cm

神山村地引絵図



神山村飛地

